(6) 中学校　授業改善の特記ポイント

国　　語

＜国語への関心・意欲・態度＞

☆単元で取り組む言語活動や身に付ける資質・能力を生徒に明確に示しましょう。

◆この単元でどのような言語活動に取り組むのか。〈取り組む言語活動〉

◆この単元でどのような資質・能力を身に付けるのか。〈身に付ける資質・能力〉

単元の学習で、どのような言語活動に取り組み、どのような資質・能力を身に付けるのかを、単元名によって生徒に明確に示すことで、生徒は見通しをもって学習に取り組むとともに、学習を振り返る際に学びの深まりを実感できるようになります。

（例）第１学年「書くこと　イ」の指導事項に重点を置いて指導する単元の単元名

学校紹介パンフレットをつくろう　・・・・・・・・・・・〈取り組む言語活動〉

―効果的な構成を工夫して書く―　・・・・・・　〈身に付ける資質・能力〉

＜話す・聞く能力＞

☆目的に沿って話合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる力を育成する指導を充実させましょう。

例えば、互いの発言を記録させる際に、話合いの目的に沿って互いの発言を比較、分類、関係付けするなどして整理させる指導が考えられます。

（例）1(3)　二つの意見を聞いて、観点を明確にして比較する。

＜書く能力＞

☆集めた材料を整理し、根拠に基づいて適切に考えをまとめる力を育成する指導を充実させましょう。

例えば、集めた材料を観点に沿って比較、分類、関係付けするなどして整理させながら考えをまとめさせる指導が考えられます。

（例）7(2)　伝えたい事実や事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書く。

＜読む能力＞

☆表現の特徴を分析的に捉え、その工夫や効果について自分の考えをまとめる力を育成する指導を充実させましょう。

例えば、既習の表現の技法や文法に関する知識等を生徒に想起させた上で表現の特徴について考えをまとめさせたり、それらの知識等を活用することを条件にして表現の特徴を考えさせたりする指導が考えられます。

（例）5(2)　表現のねらいや工夫を、場面と結び付けて読み取る。

＜言語についての知識・理解・技能＞

☆言葉の特徴やきまりに関する基礎的な事項を様々な場面で活用させる指導を充実させましょう。

漢字の書きの指導では、「へん」や「つくり」など漢字の構成要素に着目させ、その漢字の意味を理解して正しく書けるように指導しましょう。

語句の係り受けの学習の際には、文節に関する基礎的な知識を活用させ、文節相互の関係を正確に考えさせましょう。

（例）3(1)(2)(3)　学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。

4(1)　語句の係り受けについて理解し、適切に文を書く。

社　　会

＜社会的事象への関心・意欲・態度＞
☆適切な課題を設けて行う学習の充実を図りましょう。
　社会の変化に主体的に対応できる能力を育成し、自ら学ぶ意欲や課題を見いだし追究する能力や態度を育成することが重要です。生徒の興味・関心を高めるとともに、自ら課題を見いだし、自ら学び自ら考え、課題を解決する力を育成することを目指して、生徒の主体的な学習を促すような構成、展開を工夫することが大切です。
（例）4⑷ 古代までの歴史の学習を踏まえ、意欲的に探究しようとしているか。
・古代までの特色を捉えることができる学習課題を見いだす活動
・古代までの特色を捉えることができる学習方法を明らかにする活動　など

＜社会的な思考・判断・表現＞
☆主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動の充実を図りましょう。
　主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、世界の各州の地域的特色やそこで見られる地球的課題と地域的特色の関係を理解できるようになることが大切です。
（例）2⑷ オーストラリアの貿易の特色について、資料と関連付けて説明することができる。
・世界の諸地域の学習において、州ごとに設ける主題については、そこで特徴的に見られる地球的課題とともに、「各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる」地理的な事象から主題を追究する学習活動を行うこと
など

＜資料活用の技能＞
☆地理的技能を身に付けさせる指導の充実を図りましょう。
　世界の諸地域の学習においては、地球儀、世界地図、地図帳、衛星画像などを活用し、学習成果を世界地図上や略地図上に表現するなどして、地理的技能を育成することも大切です。諸資料を通して、「収集する技能」、「読み取る技能」、「まとめる技能」を生徒の習熟の様子を踏まえて着実に身に付くよう、繰り返し指導する機会を設けることが大切です。
（例）3⑴ 気温と降水量を示したグラフを正しく読み取ることができる。
・複数の気温と降水量を示したグラフを見比べて読み取る学習
⑵ 日本の気候の特色の理由を正しく捉えることができる。
・写真と説明文といった異なる諸資料を関連付けて読み取る学習
⑶ 都道府県の地域区分を複数の資料を基に正しく捉えることができる。
・ 同一地域の異なる情報の資料から地域の特色を捉える学習　など

＜社会的事象についての知識・理解＞
☆「我が国の歴史の大きな流れ」を「各時代の特色を踏まえて理解する」ことができるようにする指導の充実を図りましょう。
　生徒が、各時代の特色を自分の言葉で表現できるような「確かな理解と定着を図る」ように指導することが大切です。
（例）4⑴ 古代までの日本の外交について正しく理解している。
・各時代の特色を大きく捉え、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して、学習した内容を比較したり関連付けたりするなどして、その結果を言葉や図などで表したり、互いに意見交換したりする学習　など

数　学

＜数学への関心・意欲・態度＞

☆生徒の関心・意欲・態度の方向性を踏まえた指導の充実を図りましょう。

数学を学ぶことへの意欲を高めるとともに、どの方向へ関心・意欲・態度を伸ばしていきたいのかを明確にし、数学的活動に主体的に取り組み、数学のよさを実感できるような指導を行うことが大切です。

（例）8(4) 資料の活用に意欲的に取り組もうとしている。

・より生徒の関心・意欲を喚起するような課題設定の工夫

・多様な考え方を用いることができる課題設定の工夫　など

＜数学的な見方や考え方＞

☆「式」、「図」、「言葉」を関連付けて考えさせる指導の充実を図りましょう。

課題把握や自力解決の場面において、図や説明に対応する式を導き出したり、式に対応する図や説明を見いだしたりすることを通して、「式」、「図」、「言葉」を相互に関連させ、様々な視点から考察できるようになることが大切です。

（例）6(2) 作図の方法を表した文章について考える。

・数学的に表現された内容を、さらに違う形で数学的に表現する活動

・数学的な表現を用い、よりよい考え方について話し合う活動　など

＜数学的な技能＞

☆反復学習や立ち戻る指導に加え、計算方法等について確認する場面を作りましょう。

ペーパーテストなどで各生徒の習熟の程度を把握し、状況に応じて立ち戻る指導を行うなど、個に応じた指導の充実を図るとともに、様々な解法を行い、検討させていく中で、正しい技能を身に付けさて行くことが大切です。

（例）1(3)(4) 計算の順序、指数を含む式の計算

・誤りのある計算例を取り上げ、計算方法を確認する活動

・様々な方法で計算をした結果を検討する活動

・誤答の分析から個に応じた課題を設定し、取り組ませる活動　など

＜数量や図形などについての知識・理解＞

☆既習事項を生かし、新たな知識を構成する指導や、他の観点と連携した指導の充実を図りましょう。

数学は、系統性を重視し、それまで学習した事柄に基づいて新しい内容を構成していくので、どれくらい既知事項を生かすことができるかが重要です。数学的な見方や考え方を通して知識を習得し、次の問題解決の際に生かせるような指導を行うことが大切です。

（例）7(3) 底面積と高さが同じ柱体と錐体の体積の関係について理解する。

・具体物を用いた活動

・結果を予想し、その予想をもとに操作を行う活動

・他の観点との関連を意識した活動　など

理　　科

＜自然事象への関心・意欲・態度＞

☆学習内容から疑問をもったことを深める探究的な学習場面の設定をしましょう。

単元の学習終了時に、学習したことから新しく出た疑問について、探究的な学習場面を設定し、学習意欲を向上させることが大切です。

（例）2(2)生物の特徴を見いだして生物の体の基本的なつくりを理解させる指導

・いろいろな生物の共通点や相違点を見いだし、それを基に分類する活動

・生物の生活や特徴に関する観察の機会を意識的に設け、興味・関心を高める活動 など

＜科学的な思考・表現＞

☆「結果が、なぜそのようになるのか」という理由を考える学習場面の設定が大切です。

観察・実験を行う際に仮説や実験計画を立てさせてから、実験・観察・実験を行い、「結果が、なぜそのようになったのか」について、仮説に戻って考えさせることが大切です。

（例）5(2)力の大きさによって変形の様子が異なることを見いださせる指導

・仮説を立てて、調べる要因に応じて「変化させる要因」と「固定する要因」を明確にして、実験計画を立てさせる。さらに、実験後の結果を予想させる。

・予想した結果どおりにならなかった理由を言語活動で考えさせる。 など

＜観察・実験の技能＞

☆習熟を図る機会を増やし、適切な使用方法を指導することが大切です。

実際に道具や器具等を使用する際に、生徒同士で使用方法を確認させる、器具等の仕組を理解させる、操作の機会が増えるように観察・実験の個別化を図ることが大切です。

（例）6(2)光源と凸レンズを用いて実像を観察する実験の指導

・適切な操作ができるか、１人１回実際に操作をして、生徒同士で教え合う。

・１回の実験での観察について、グループの人数分の機会を設け、１人ずつ操作の機会を与える。 など

＜自然事象についての知識・理解＞

☆モデル演示等により、実感を伴って知識を定着させる指導をすることが大切です。

直接観察したり、確認したりできない自然事象について、モデルや模式図などを活用して視覚化し、実感を伴った理解ができるように指導することが大切です。

（例）7(3)火山の形、活動の様子及びその噴出物を地下のマグマの性質と関連付けて理解させる指導

・火山が形成されるモデル実験を行い、その結果と関連付けて考察させる指導をする。 など

英　語

＜コミュニケーションへの関心・意欲・態度＞

☆生徒が意欲的に取り組めるような具体的な課題を設定しましょう。

生徒が興味をもって取り組むことができるよう、自分の好み、学校生活や家庭生活、過去の出来事や将来の夢など、生徒の実態に即した話題を選択することが大切です。お互いの考えや気持ち等を伝え合う必然性のある活動、生徒が目的をもって取り組むことのできる活動を易しいものから段階的に計画するようにします。

また、単元のゴールとなる具体的な課題を設定し、目標を明確にすることで生徒に学習の見通しを立てさせるとともに、振り返りを通じて次の学習につながる気付きを促すなど、指導の過程を工夫することで、コミュニケーションへの意欲を高めることができます。

＜外国語表現の能力＞

☆目的、場面、状況等に応じて表現する場面を設定しましょう。

コミュニケーションを行う目的、場面、状況等に応じた具体的な言語活動を設定し、既習事項を活用して課題を解決する活動を設定しましょう。その際、既習事項を繰り返し使用させる場面を意図的、計画的に設定し、知識・技能の定着を図りながら表現の能力を高めていくことが大切です。

（例）6　質問に対して正しい英語を用いて２文で応答できる。

・Q&A 活動において、必ず「質問に対する応答」＋「１文」を言わせる。

・オーラルインタラクションにおいて生徒に答えさせる際、「Why?」「What do you think?」など、自分の考えを述べさせる場面を設定する。　など

＜外国語理解の能力＞

☆目的に応じた様々な読み方を指導するようにしましょう。

まとまりのある英文を読み理解を深めていくためには、「必要な情報を読み取る」、「概要を把握する」、「要点を捉える」といった目的に応じた読み方が求められます。生徒が教科書の英文を読む際にも、常に読み取らせるポイントを意識させながら、把握する内容に軽重をつけた読み方を指導していくことが重要です。

（例）7(2) まとまりのある英文を読んで、趣旨を理解する。

・まとまりのある文章を読んで、含まれている複数の情報から、書き手が最も伝えたいことは何か「判断して捉える」ことが必要な課題を設定する。　など

＜言語や文化についての知識・理解＞

☆繰り返し活用させることを通じて、定着を図りましょう。

コミュニケーションの目的、場面、状況等に応じて、既習の語彙や表現、文法事項等を活用することができるよう指導過程を工夫し、定着を図っていくことが大切です。文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気付きを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付けて指導します。